

## 船舶事故調査報告書

平成31年4月24日  
 運輸安全委員会（海事専門部会）議決  
 委員 佐藤 雄二（部会長）  
 委員 田村 兼吉  
 委員 岡本 満喜子

事故種類	乗組員行方不明
発生日時	不明（平成30年2月11日 16時30分ごろ～12日 10時15分ごろの間）
発生場所	不明（高知県須崎市中ノ島南方沖～高知県中土佐町加江崎北東側の間）
事故の概要	漁船 <sup>かつよう</sup> 勝養丸は、出港した後、無人で岩場に乗り揚げているところを発見され、船長が行方不明となった。
事故調査の経過	平成30年2月16日、本事故の調査を担当する主管調査官（神戸事務所）ほか1人の地方事故調査官を指名した。 原因関係者からの意見聴取は、本人が本事故で行方不明となっているため、行わなかった。
事実情報 船種船名、総トン数 船舶番号、船舶所有者等 L×B×D、船質 機関、出力、進水等	漁船 勝養丸、3.0トン K03-15781（漁船登録番号）、個人所有 9.55m（Lr）×2.68m×0.86m、FRP ディーゼル機関、漁船法馬力数70、昭和59年11月20日
乗組員等に関する情報	船長 男性 63歳 二級小型船舶操縦士 免許登録日 平成24年8月17日 免許証交付日 平成28年9月30日 （平成34年8月16日まで有効）
死傷者等	行方不明 1人（船長）
損傷	船底外板に破口
気象・海象	気象：天気 晴れ、風向 北西～南西、風力 3～5、視界 良好 海象：波向 南～西北西、波高 約2～3m、水温 約16℃ 須崎市には、2月10日04時00分に強風注意報及び波浪注意報が、11日16時10分に雷注意報がそれぞれ発表された後、21時23分に強風注意報が解除されて風雪注意報が発表され、本船発見時において、いずれも継続中であった。
事故の経過	本船は、船長が1人で乗り組み、平成30年2月11日16時30分ごろ、引き縄漁の操業を行う目的で、須崎市中ノ島漁港を出港した。 船長の親族は、翌朝になっても本船が帰港しておらず、12日05

	<p>時00分ごろから船長の携帯電話に複数回電話を掛けたものの、応答がなかったので心配になり、06時30分ごろ、海上保安庁に通報するとともに、所属漁業協同組合に連絡した。</p> <p>本船は、海上保安庁の巡視船艇、僚船等による捜索が行われ、10時15分ごろ、加江埼北東側の岩場に無人で乗り揚げているところを僚船に発見された。</p> <p>船長は、本船が発見された場所付近の捜索が行われた後、引き続き、巡視船艇、僚船等による海上の捜索が継続されたものの、行方不明となった。</p> <p>(付図1 事故発生場所概略図、写真1 本船 参照)</p>
<p>その他の事項</p>	<p>本船の引き縄漁は、両舷側から釣り竿各1本を舷外に出し、潜航板(疑似餌を海中に沈め、動きをつけてくれる板状の漁具)、疑似餌及び釣り針を付けた鉛入りの釣り糸を海底に沈ませ、漁具を引いて行うものであり、投げ縄作業から揚げ縄作業に至るまでの間、約4ノットの対地速力で航行しながら操業を行うものである。</p> <p>中ノ島漁港を根拠地とする引き縄漁船の操業形態は、本事故当時、日出前及び日没前に出航することが多かったが、帰航する時刻は特に決まっていなかった。</p> <p>船長の親族は、出航しようとする船長に対し、海上が時化模様なので出航を中止するよう忠告していた。</p> <p>本船は、発見された際、主機のクラッチレバーが前進の位置にあったが、主機は燃料タンク等に海水が浸入した影響により停止しており、また、舷外に出された2本の釣り竿のうち、1本が折れており、船体には岩場に乗り揚げた際に生じたと思われる損傷以外に、他船と衝突したような痕跡は認められなかった。</p> <p>船長は、出航した際、携帯電話を身に着け、ヤッケ、ジャージ、上下のカップ、帽子及びゴム長靴をそれぞれ着用し、両手にゴム手袋をはめていたものの、救命胴衣を着用しておらず、本船が発見された際、船長がふだん着用していたヤッケ、上下のカップ及びゴム手袋が本船の後部甲板上に置かれた状態であったものの、携帯電話は発見されなかった。</p> <p>船長の親族は、ふだん、船長が、操業中に用を足す際、カップ及びゴム手袋を脱いでから行うので、本事故時、後部甲板上で舷外に向けて用を足している際に波浪等の影響を受け、体勢を崩して落水したのではないかと思った。</p> <p>本船の後部甲板は、船尾部にステンレスパイプ製の手すりが設置されており、手すりの高さが、同甲板上から0.63mで、手すりがない場所は、同甲板上から船縁頂部までの高さが0.23mであった。</p> <p>(写真2 本船の後部甲板 参照)</p> <p>本船は、搭載していたGPSプロッターに本事故当時の航跡が残さ</p>

	<p>れており、中ノ島南方海域から南進し、右旋回しながら徐々に西進した後、中土佐町久礼港東方海域で再び南進し、大津崎南東方海域で再度、右旋回しながら南南西進して加江崎に向かっていた。</p> <p>(写真3 本船のGPSプロッター画面①、写真4 本船のGPSプロッター画面② 参照)</p> <p>船長は、本事故当日、体調不良などを訴えておらず、ふだんと変わらない様子であった。</p>
<p><b>分析</b></p> <p>乗組員等の関与 船体・機関等の関与 気象・海象等の関与 判明した事項の解析</p>	<p>不明</p> <p>不明</p> <p>不明</p> <p>船長は、行方不明となった。</p> <p>本船は、11日16時30分ごろ、中ノ島漁港を出港した後、12日10時15分ごろ、加江崎北東側の岩場に無人の状態で乗り揚げているところを発見されたことから、この間において、船長が落水したものと考えられる。</p> <p>船長は、本船が発見された際、2本の釣り竿が舷外に出されていたこと、主機のクラッチレバーが前進状態であったこと、及び他船との衝突痕が認められなかったことから、引き縄漁の作業中に落水した可能性があると考えられるが、その状況を明らかにすることはできなかった。</p>
<p><b>原因</b></p>	<p>本事故は、本船が、中ノ島漁港を出港した後、船長が落水したことにより発生したものと考えられる。</p>
<p><b>再発防止策</b></p>	<p>今後の同種事故等の再発防止及び被害の軽減に役立つ事項として、次のことが考えられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 小型船舶の乗船者は、救命胴衣を着用すること。</li> <li>・ 小型船舶の操船者は、船舶の堪航性を考慮し、気象及び海象が悪化している状況下では、出航を控えることが望ましい。</li> </ul>

付図1 事故発生場所概略図

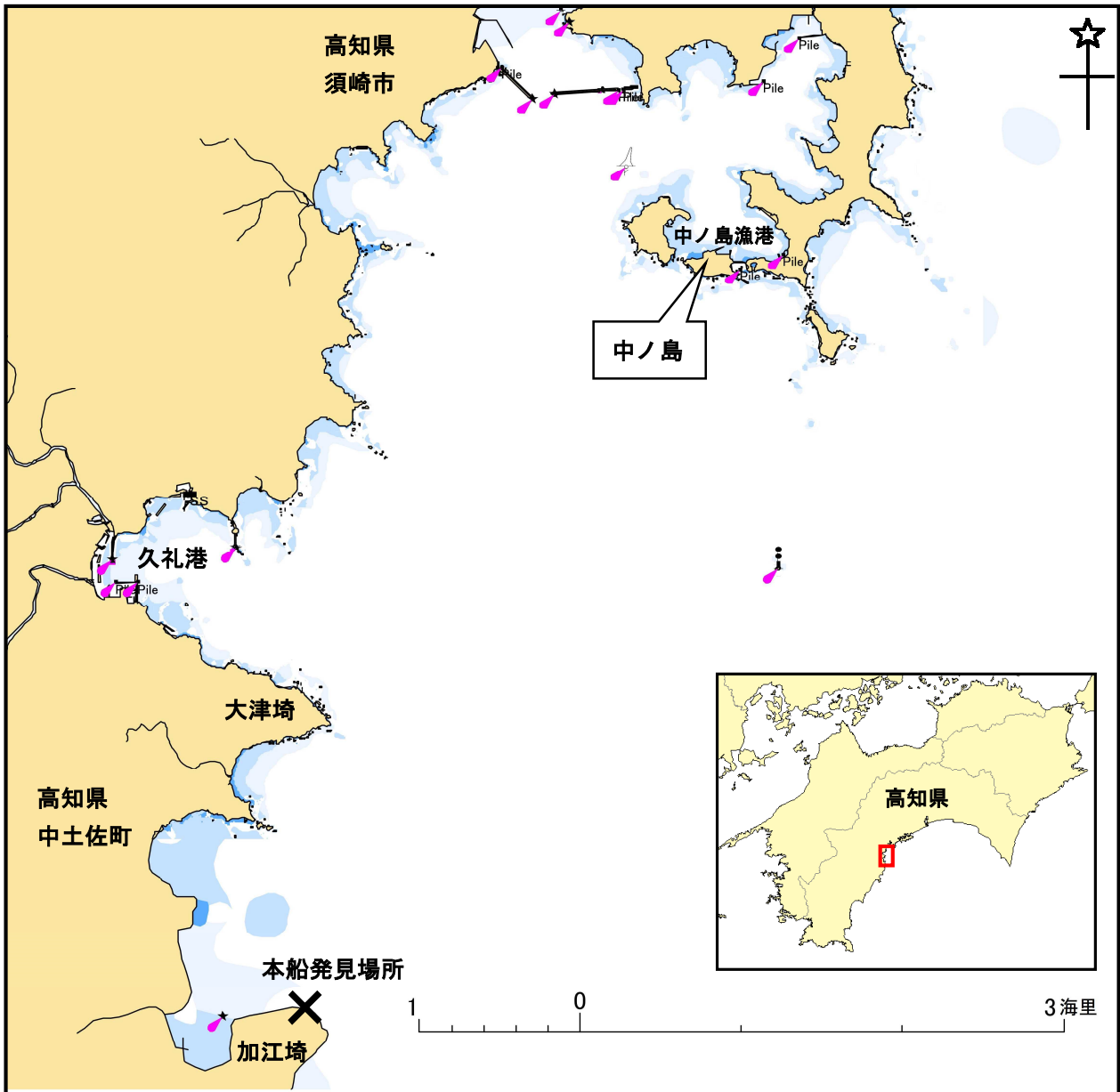


写真1 本船



写真2 本船の後部甲板

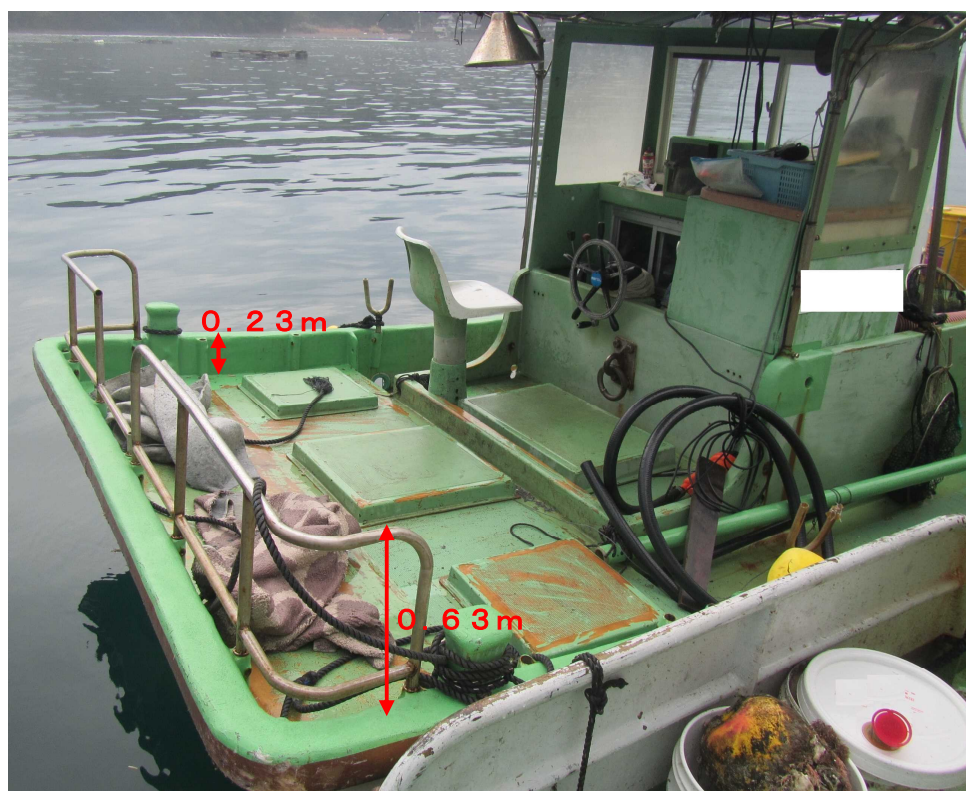


写真3 本船のGPSプロッター画面①

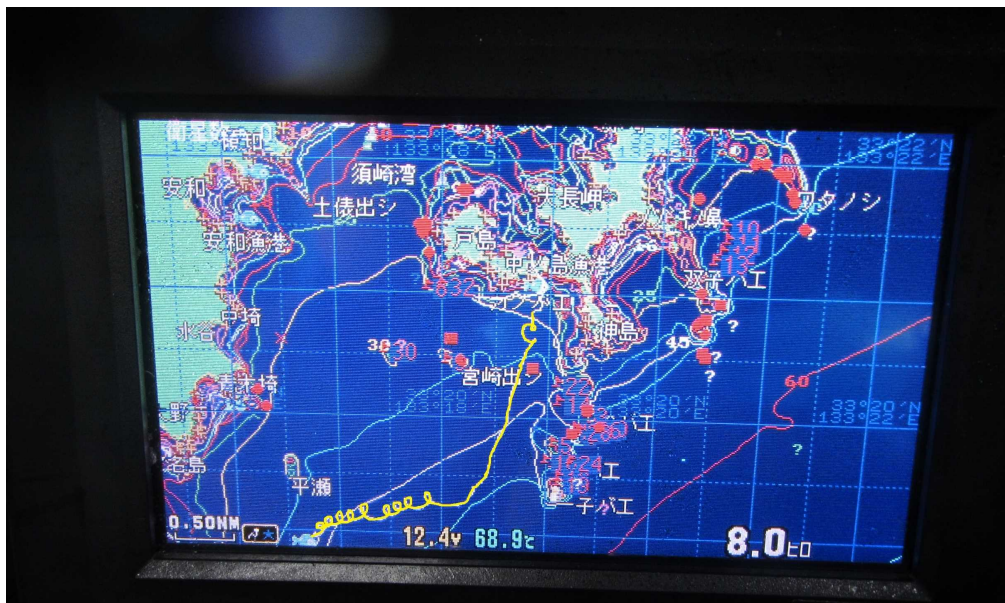
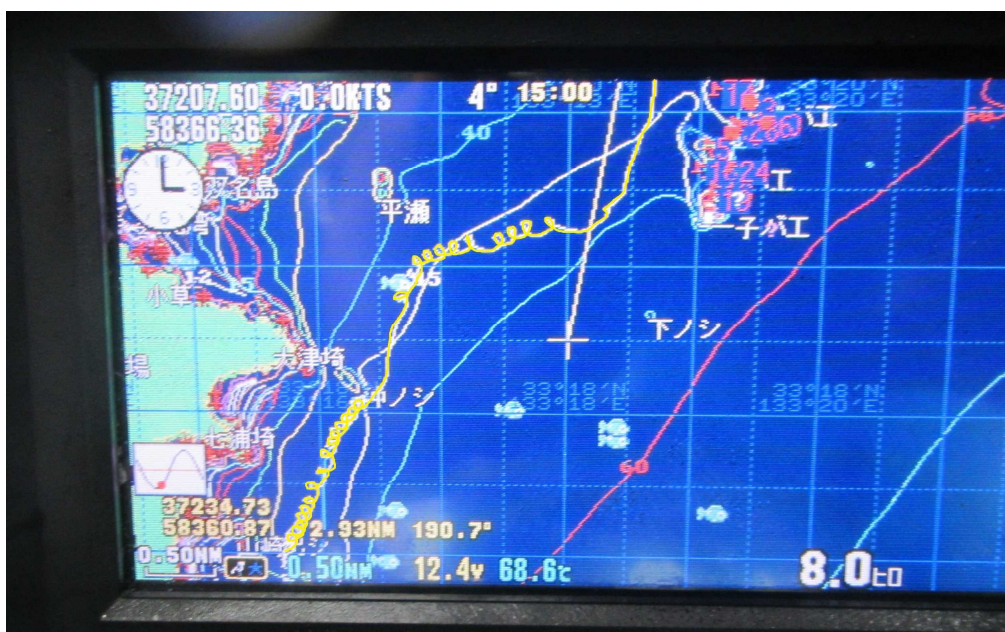


写真4 本船のGPSプロッター画面②



※ 写真3及び写真4とも黄色線が本事故当時の航跡